

地震・被害の概要  
(20年12月15日現在)

- ◇発生日時  
20年6月14日 午前8時43分
- ◇震源地  
岩手県内陸南部  
(北緯39度、東経140度)
- ◇震源の深さ  
8キロ
- ◇地震の規模  
マグニチュード7.2
- ◇市内各区の震度  
震度6強 衣川区  
震度6弱 胆沢区  
震度5強 水沢区、江刺区、  
前沢区
- ◇人的被害  
死亡1人、重傷7人、軽傷25人
- ◇住宅被害  
全焼1棟、半壊2棟、一部損壊  
453棟
- ◇非住家被害  
全壊10棟、半壊26棟、一部損壊  
192棟
- ◇被害総額  
61億2,700万円
- ◇停電  
1,387戸(6月16日にすべて復旧)
- ◇断水  
1,000戸(6月26日にすべて復旧)
- ◇水道施設被害  
157件
- ◇教育施設被害  
105施設
- ◇市道被害  
57路線
- ◇橋梁被害  
8カ所
- ◇市管理河川被害  
5河川
- ◇市営浄化槽被害  
28カ所
- ◇農林業関係被害  
面積69.75%、施設565カ所、家  
畜2頭
- ◇避難者数(延べ)  
440人
- ◇避難勧告  
衣川区下河内(天土)の3世帯  
(20年6月23日発令～21年4  
月20日解除)
- ◇仮設住宅建設戸数  
胆沢区愛宕 4戸  
衣川区石生 4戸



1 震源地に近い衣川区増沢地区では橋が崩れ落ちた 2 天井板がはがれ落ち使用できなくなった胆沢愛宕公民館 3 衣川区では断水が続き給水車が出動

**【特集】**  
**「6・14を忘れない」**  
岩手・宮城内陸地震発生から1年

写真＝県道花巻衣川線

**【特集】**  
**「6・14を忘れない」**  
岩手・宮城内陸地震発生から1年

やかな土曜日が始まるはずだった昨年6月14日の朝。午前8時43分に、突然、激しい揺れがわたしたちを襲いました。後に「岩手・宮城内陸地震」と名付けられたこの地震は、マグニチュード7.2、最大震度6強という、かつて経験したことのない、とてつもない規模のものでした。震源地が岩手県内陸南部ということもあって、本市と一関市、宮城県栗原市を中心に、大きな揺れを観測。特に衣川区では震度6強、胆沢区では震度6弱の揺れにみまわれ、甚大な被害を受けました。

胆沢ダム工事現場では、作業中だった40代の男性が落石を受け死亡。尊い命が失われました。胆沢区若柳の林道では、自然観察に向かっていたバスが谷に転落し、乗客8人が骨折や打撲などの重軽傷を負いました。そのほかにも転倒したり、ガラスの破片だけがをしたりする人が続出。市内全体で死亡者1人、重傷者7人、軽傷者25人という惨事となりました。

住宅の被害も甚大で、地震による火事で1棟が全焼、2棟が半壊しました。一部損壊の被害は、胆沢区と衣川区を中心に市内全域に及び、453棟の家屋が損傷を受けました。強い余震が断続的に続いたことなどもあり、市が設置した避難所には、延べ440人が避難。6月23日には、落石などの危険性から、衣川区下河内(天土)の3世帯に市が避難勧告を発令しました。勧告の対象となった人たちは、4月20日に勧告が解除されるまで、避難所や別住居での暮らしを余儀なくされました。

生活に欠かすことのできないライフラインも広範囲で被害を受け、最大で1387戸が停電し、1000戸が断水にみまわれました。特に衣川区では、昼夜を通した懸命の復旧作業にもかかわらず、10日以上断水が続いた地区もあり、多くの世帯が不便な生活を強いられました。そのほかにも、道路や橋、建物、田畑などに大きな被害があり、この地震による被害総額は61億2700万円にものぼりました。